

持続可能な農業生産に向けたスマート農業の役割

～スマート農業技術の裾野を広げていくために～

令和7年12月2日、岡山県拠点において、岡山県内でスマート農業技術を先進的に取り入れている農業者3名をオンラインで結び、スマート農業技術の取組状況や現状の課題とその解決に向けた取組を共有し、持続可能な農業生産に向けスマート農業技術の果たす役割や裾野を広げていくための取組について意見交換を行いました。

農業者の取組

農事組合法人寄江原（※取組概要は[こちら](#)）

- ・農地を3区分（自動操舵田植機、ドローン湛水直播、高収益作物二毛作）化し、経営展開。
- ・ドローン湛水直播技術を地域へ横展開し、ほ場条件に応じたきめ細かな稲作を実践。

○共通の取組

- ①ドローンの活用
農薬等散布・センシング・可変施肥への応用
→ 営農支援システムとの連携を実現
- ②データの活用と展開方向
 - ・ゾーニングによる効率化、品質確保
 - ・水稻直播による更なるコスト削減

(株)ファーム安井（※取組概要は[こちら](#)）

- ・センシングや収量等データをKSAS営農支援システムで管理し、タンパク含有率や整粒率等を組み合わせたデータ駆動型稲作を実践
- ・PDCAサイクルにより顧客ニーズに応じた作付けゾーン設定、品質・収量性向上を目指す。

星天FST ((有)山室組)（※取組概要は[こちら](#)）

- ・稲作、ドローンスクール運営、ドローンによる農薬肥料散布受託は年間400haに及ぶ。
- ・ドローン湛水直播+高温対策にBS資材を活用し、中干し延長でJクレジット制度にも取り組む。センシング結果に基づく可変追肥で収量安定化を目指す。

持続可能な農業生産に向けたスマート農業の役割

～スマート農業技術の裾野を広げていくために～

①高温対策

共通の課題

②草刈り対策

- ・水温管理やセンシング結果に基づくドローン施肥、BS資材の活用。
- ・高温耐性品種：高収量となるが食味面での評価が低調→需要に応じた生産において高温耐性品種の活用は品質面で課題。

- ・気温上昇→畦畔雑草の異常繁茂
- ・ラジコン草刈機：畦畔斜度や刈幅、回数増の問題があり使用頻度が低下→モアアタッチメントの活用頻度が上昇。
- ・地域の連携は必須→地域農業を守る取組への展開を考慮

持続的な農業生産に向けての方向

○経営改善の視点

- ・機械や技術の進化への対応(理解度促進のための研修)
- ・人材育成や資格取得のための支援
- ・後継者確保のための対策

○地域農業への貢献

- ・地域農業は法人だけでは支えきれない
- ・地域との協力関係を構築し、地域農業を支えていく存在へ発展を目指す

○理解醸成

今後の農業を担う若い世代や子供たちにスマート農業技術を活用した農業の魅力を発信し、農業に対する理解を深めてもらうことが大切。

指導者及び後継者の育成、品目別栽培方法のマニュアル化等

草刈り作業など地域との連携体制の構築等

スマート農機の実演会や体験の場を提供等